

## 日本赤十字九州国際看護大学学術情報リポジトリ

タイトル	看護大学への編入学制度に対する意識調査：卒業生と在学生を比較して
著者	佐々木幾美, 吉田みつ子, 川原由佳里, 本田多美枝, 濱田悦子, 樋口康子
掲載誌	日本赤十字看護学会誌, 2(1) : pp 101-109.
発行年	2002.03
版	publisher
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1127/00000331/">http://id.nii.ac.jp/1127/00000331/</a>

### <利用について>

- ・本リポジトリに登録されているコンテンツの著作権は、執筆者、出版社(学協会)などが有します。
- ・本リポジトリに登録されているコンテンツの利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用などの範囲内で行ってください。
- ・著作権に規定されている私的使用や引用などの範囲を超える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。
- ・ただし、著作権者から著作権等管理事業者(学術著作権協会、日本著作出版権管理システムなど)に権利委託されているコンテンツの利用手続については各著作権等管理事業者に確認してください。

## 資 料

# 看護大学への編入学制度に対する意識調査 —卒業生と在学生を比較して—

佐々木 幾美\*<sup>1</sup>, 吉田 みつ子\*<sup>1</sup>, 川原 由佳里\*<sup>1</sup>,  
本田 多美枝\*<sup>2</sup>, 濱田 悦子\*<sup>1</sup>, 樋口 康子\*<sup>1</sup>

## Awareness about Transferring to Nursing Universities —A Survey Comparison between Graduates and Students—

SASAKI Ikumi, YOSHIDA Mitsuko, KAWAHARA Yukari,  
HONDA Tamie, HAMADA Etsuko, HIGUCHI Yasuko

キーワード：編入学制度、学習ニーズ、社会的支援、卒業生、在学生

Key Words：Transferring to Nursing Universities, Needs of Study, Social Support,  
Graduates, Students

### I. はじめに

21世紀を目前とした今、医療の世界においても少子化、超高齢化の波が押し寄せ、高度医療に伴う複雑な課題が生じ、まさに激動の時代を迎えている。その中で看護専門職として人間の生命に対して尊厳を持ちながら人とかわり、人々のQuality of Lifeに貢献できるような専門家を育成しなければならない。そのためには現状の看護基礎教育（資格取得までの教育）内容を完結教育とすることは不十分であり、看護学教育において生涯教育の充実と機会の拡大が求められてきている。今日ではその1つの方略とし

て編入学制度を取り入れる大学も増加している。

一方、文部省（1998）は「来るべき21世紀において、1人1人がそれぞれの個性や創造性を伸ばし、我が国が活力ある社会として発展していくためには、学校教育制度においても多様で柔軟なものになるように改革を図っていく必要がある」という趣旨のもと、高等教育制度の弾力化を図り、学校教育法等の一部を改訂する法律を平成10年6月に公布した。これによると、文部大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者は大学に編入学できることになった。その基準は、修業年限が2年以上かつ課程の修了に必要な総授業時間数が1700時間以上で

\*<sup>1</sup>日本赤十字看護大学、\*<sup>2</sup>日本赤十字看護大学大学院

受理：平成14年2月19日

ある。保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則によると、ほとんどの看護専門学校がこの基準を満たすことになる。

これまで看護大学への編入学は看護短期大学卒業生だけに門戸が開かれ、専修学校である看護専門学校から看護大学への編入学は不可能であった。したがって、看護専門学校卒業生が大学以上の高等教育に進学する場合、再度大学へ入学しなおさなければならなかった。しかし、今回の学校教育法の一部改正により、看護専門学校卒業生の大学編入が可能となり、さらに大学院への門戸も拡大したと考えてよい。

先行研究では、看護短期大学卒業生を対象者とした編入学に関する調査研究（日本看護協会看護教育制度検討委員会,1980；河野他,1994；平河,1996；平河他,1996；河口他,1997；大賀,1998）が大部分であり、看護専門学校卒業生や在學生を対象者に含めたものではない。したがって、大学編入学の機会が拡大した今日、彼らの大学教育に対する期待や学習ニーズ等の具体的な内容についてはほとんど調査されていない。

ない。

以上より、本研究の目的は3年課程看護専門学校・短期大学の卒業生及び在學生を対象に、看護大学への編入学に対する意識を明らかにすることとした。それにより、今後の看護学教育におけるカリキュラム等の充実を図るための基礎資料としたい。これまでの調査(吉田他；2000)では、看護専門学校及び看護短大の在學生間には、大きな違いが認められなかったため、本研究では、卒業生と在學生の比較に焦点をあてた。

## Ⅱ. 研究方法

### A. 調査枠組み

看護大学への編入学制度に関する文献検討、及び編入学在學生11名、看護専門学校卒業生及び在學生10名に対する面接調査内容の分析結果より、図1に示した調査枠組みを作成した(図1)。調査枠組みは①対象者の特性②編入学に必要な環境・社会的支援③編入学志望動機④学習ニーズから成る。これをもとに、調査票を作成し、

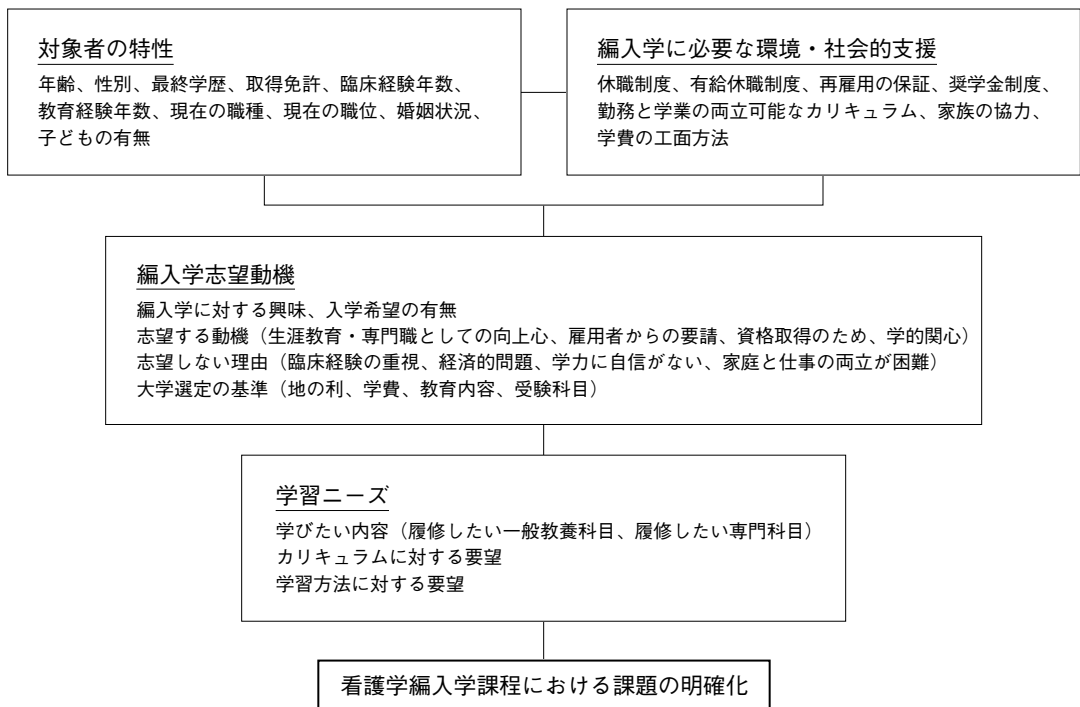


図1. 調査枠組み

プレテストを10名の対象者に行い、回答しやすさ等について検討し修正した。

## B. 調査対象者及び調査方法

北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中国四国、九州、沖縄という地域区分毎に1ヶ所のN系の7病院に依頼し、看護短期大学・看護専門学校卒業生計420名に調査票を配布した。またN系看護短期大学・看護専門学校3年生を対象者とし、短期大学3校、看護専門学校5校(計432名)に配布した。回収は、回答者が個別に直接返送できるよう配慮した。調査期間は2000年4月3日～4月21日であった。

## C. 分析方法

分析は単純集計、カイ二乗検定を用いた。データの分析にはSPSS Ver.10J for Windowsを用いた。統計の検定に関しては有意水準5%を採用した。

## D. 倫理的配慮

研究目的及び研究協力は自由意志である旨を文書で伝え、依頼した。また、不明点の問い合わせ先を提示し、回答は本研究以外では使用せず、データについては匿名で扱い、対象者のプライバシーを保護した。

## Ⅲ. 結果

### A. 対象者の特性

調査票は卒業生420名、在学生432名(計852名)に配布し、回答数(回収率)は卒業生330名(78.6%)、在学生257名(59.5%)、計587名(68.8%)であった。平均年齢は卒業生27.9歳(SD 5.07)、在学生21.4歳(SD 1.77)であった。卒業生は未婚の者が270名(81.8%)、既婚の者が54名(16.4%)、死別または離婚が6名(1.8%)であるのに対し、在学生は未婚は256名(99.6%)、既婚は0名、死別または離婚が1名(0.4%)であった。また、子どもの有無については、卒業生が34名(10.3%)であるのに対し、在学生は1名(0.4%)であった。

### B. 編入学志望動機

#### 1. 編入学制度の認知

大学編入学制度の認知については表1に示す(表1)。在学生は「知っていた」と答えた者が192名(74.7%)であるのに対し、卒業生は220名(66.7%)にすぎず、有意に少ないことが明らかになった( $\chi^2(1)=4.48$ )。

#### 2. 大学編入学に対する希望

大学編入学に対する希望については表2に示す(表2)。編入学を希望すると答えた者が卒業

表1. 大学編入学制度の認知

大学編入学制度の認知	卒業生 (N=330) 人数 (%)	在学生 (N=257) 人数 (%)	合計 (N=587) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
知っていた	220 (66.7%)	192 (74.7%)	412 (70.2%)	4.48	<0.05
知らなかった	110 (33.3%)	65 (25.3%)	175 (29.8%)		

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

表2. 大学編入学に対する希望

大学編入学に対する希望	卒業生 (N=329) 人数 (%)	在学生 (N=257) 人数 (%)	合計 (N=586) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
編入学したい	179 (54.4%)	138 (53.7%)	317 (55.8%)	0.03	NS
編入学したくない	150 (45.6%)	119 (46.3%)	269 (44.2%)		

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

生179名 (54.4%)、在學生138名 (53.7%) であり、希望しないと答えた者が卒業生 150名 (45.6%)、在學生119名 (46.3%) であった。両群に有意差は見られなかった ( $\chi^2(1)=0.03$ )。

大学編入学を希望すると答えた者の理由については表3に示す (表3)。卒業生の回答で最も多いのが、「一般教養を深めたい」という回答118名 (65.9%) であり、次に「看護をさらに学びたい」の100名 (55.9%)、「大卒の資格・学歴が欲しい」の96名 (53.6%) であった。在學生の回答で最も多いのが、「大卒の資格・学歴が欲しい」という回答84名 (61.3%) であり、次に「看護をさらに学びたい」の78名 (56.9%)、「保健婦の免許を取得したい」の72名 (52.6%) であった。「一般教養を学びたい」「リフレッシュ

するために」「研究を学びたい」については、卒業生の方が有意に多く回答し ( $\chi^2(1)=10.87$ 、 $\chi^2(1)=34.10$ 、 $\chi^2(1)=5.95$ )、「保健婦の免許を取得したい」、「大学生活を楽しみたい」については、在學生の方が有意に多く回答していた ( $\chi^2(1)=19.85$ 、 $\chi^2(1)=6.91$ )。

一方、編入学を希望しないと答えた者の理由については表4に示す (表4)。卒業生、在學生ともに最も多いのが「臨床での経験を積みたいから」であり、それぞれ76名 (51.0%)、78名 (65.5%) であった。次いで「学費がかかるから」が卒業生63名 (42.3%)、在學生72名 (60.5%)、「勉強についていく自信がない」63名 (42.3%)、在學生33名 (27.7%) という理由が挙げられた。「臨床での経験を積みたいから」「学費がかかる

表3. 大学編入学を希望する理由

(複数回答)

大学編入学の希望理由	卒業生 (N=179) 人数 (%)	在學生 (N=138) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
一般教養を深めたい	118 (65.9%)	65 (47.4%)	10.87	<0.05
看護をさらに学びたい	100 (55.9%)	78 (56.9%)	0.04	NS
大卒の資格・学歴が欲しい	96 (53.6%)	84 (61.3%)	1.81	NS
リフレッシュするために	69 (38.5%)	13 (9.5%)	34.10	<0.05
保健婦の免許を取得したい	50 (27.9%)	72 (52.6%)	19.85	<0.05
大学生活を楽しみたい	40 (22.3%)	49 (35.8%)	6.91	<0.05
研究を学びたい	33 (18.4%)	12 (8.8%)	5.95	<0.05
大学院の修士課程や博士課程の道をひろげたい	28 (15.6%)	31 (22.6%)	2.49	NS
他者から勧められて	8 (4.5%)	9 (6.6%)	0.67	NS
その他	7 (3.9%)	7 (5.1%)	0.26	NS

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

表4. 編入学を希望しない理由

(複数回答)

希望しない理由	卒業生 (N=150) 人数 (%)	在學生 (N=119) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
臨床での経験を積みたいから	76 (51.0%)	78 (65.5%)	5.72	<0.05
学費がかかるから	63 (42.3%)	72 (60.5%)	8.79	<0.05
勉強についていく自信がない	63 (42.3%)	33 (27.7%)	6.09	<0.05
家庭や仕事との両立が難しい	50 (33.6%)	33 (27.7%)	1.05	NS
近くに編入学制度をもつ大学がないから	37 (24.8%)	12 (10.1%)	9.63	<0.05
大学で学ぶ必要性を感じないから	30 (20.1%)	21 (17.6%)	0.27	NS
入学試験が難しいから	31 (20.8%)	23 (19.3%)	0.09	NS
その他	21 (14.1%)	11 (9.2%)	1.48	NS

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

から」については、在学生の方が有意に多く回答しているのに対し( $\chi^2(1)=5.72$ 、 $\chi^2(1)=8.79$ )、「勉学についていく自信がない」「近くに編入学制度をもつ大学がないから」については、卒業生の方が有意に多く回答していた( $\chi^2(1)=6.09$ 、 $\chi^2(1)=9.63$ )。

### C. 学習ニーズ

#### 1. 希望する学習内容

編入学を希望すると答えた者のうち、編入学して学びたいことに対する回答を表5に示す(表5)。「一般教養により豊かな人間性を身につけたい」については、卒業生が138名(77.1%)に対し、在学生が91名(65.9%)と卒業生の方が有意に多く( $\chi^2(1)=4.83$ )、「保健婦としての基礎的知識技術を学ぶ」については、卒業生が44

名(24.6%)に対して在学生が66名(47.8%)と、在学生の方が有意に多く回答していることがわかった( $\chi^2(1)=18.58$ )。

#### 2. 希望する学習方法

編入学を希望すると答えた者のうち、編入学で希望する学習方法については表6に示す(表6)。卒業生、在学生ともに「いろいろな先生の幅広い講義を聴きたい」と答えた者が最も多く、それぞれ159名(88.8%)、106名(76.8%)であったが、卒業生の方が有意に多く答えていた。次いで「人間関係を発展させる体験学習の経験」と答えたものが卒業生は82名(45.8%)、在学生は77名(55.8%)であった。「大学での看護学実習を経験してみたい」と答えた者は在学生の方が有意に多く( $\chi^2(1)=4.49$ )、逆に「いろいろな先生の幅広い講義を聴きたい」「レポート

表5. 編入学して学びたいこと

(複数回答)

学びたいこと	卒業生 (N=179) 人数 (%)	在学生 (N=138) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
一般教養により豊かな人間性を身につける	138 (77.1%)	91 (65.9%)	4.83	<0.05
看護職としての人間的な成長をはかる	134 (74.9%)	103 (74.6%)	0.00	NS
アセスメント能力や実践能力を身につける	88 (49.2%)	58 (42.0%)	1.57	NS
理論や知識を深め看護体験を分析する	82 (45.8%)	49 (35.5%)	3.41	NS
保健婦としての基礎的知識技術を学ぶ	44 (24.6%)	66 (47.8%)	18.58	<0.05
看護研究の基礎知識や研究態度を身につける	35 (19.6%)	24 (17.4%)	0.24	NS
勉強の仕方を身につける	18 (10.1%)	12 (8.7%)	0.17	NS
その他	1 (0.6%)	3 (2.2%)	1.63	NS

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

表6. 編入学で希望する学習方法

(複数回答)

希望する学習方法	卒業生 (N=179) 人数 (%)	在学生 (N=138) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
いろいろな先生の幅広い講義を聴きたい	159 (88.8%)	106 (76.8%)	8.20	<0.05
人間関係を発展させる体験学習を経験したい	82 (45.8%)	77 (55.8%)	3.11	NS
ゼミの機会を多くもちたい	72 (40.2%)	48 (34.8%)	0.98	NS
少人数のディスカッションを多くもちたい	63 (35.2%)	48 (34.8%)	0.01	NS
大学での看護学実習を経験してみたい	44 (24.6%)	49 (35.5%)	4.49	<0.05
レポートや論文の書き方を学ぶ機会を多くもちたい	41 (22.9%)	17 (12.3%)	5.84	<0.05
図書館で自由に調べたり勉強したい	35 (19.6%)	27 (19.6%)	0.00	NS
実際に1人で看護研究に取り組みたい	16 (8.9%)	9 (6.5%)	0.63	NS
その他	2 (1.1%)	1 (0.7%)	0.13	NS

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

や論文の書き方を学ぶ機会を多く持ちたい」と答えた者は卒業生に有意に多かった ( $\chi^2(1)=8.20$ ,  $\chi^2(1)=5.84$ )。

### 3. 大学で学習したい単位

編入学を希望すると答えた者のうち、大学で学習したい単位については表7-1、表7-2、表7-3に示す(表7-1、表7-2、表7-3)。一般教養科目、看護専門科目、実習ともに「単位に関係なく興味・関心ある科目を履修したい」と回答している者が70%以上であり、「既に取得した単位

以外の科目を履修したい」と回答している者は少なかった。いずれも卒業生の方が「単位に関係なく興味・関心ある科目を履修したい」と答えている割合が有意に高かった(一般教養科目: $\chi^2(1)=5.98$ 、看護専門科目: $\chi^2(1)=9.59$ 、実習: $\chi^2(1)=5.02$ )。

## D. 編入学に必要な環境・社会的支援

### 1. 学費の工面

学費の工面については表8に示す(表8)。卒

表7-1. 大学で学習したい単位 (一般教養科目)

	卒業生 (N=178) 人数 (%)	在学生 (N=137) 人数 (%)	合計 (N=315) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
既に取得した単位以外の科目を履修したい	15 (8.4%)	24 (17.5%)	39 (12.4%)	5.98	<0.05
単位に関係なく興味・関心ある科目を履修したい	163 (91.6%)	113 (82.5%)	276 (87.6%)		

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

表7-2. 大学で学習したい単位 (看護専門科目)

	卒業生 (N=178) 人数 (%)	在学生 (N=137) 人数 (%)	合計 (N=315) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
既に取得した単位以外の科目を履修したい	14 (7.9%)	27 (19.7%)	41 (13.0%)	9.59	<0.05
単位に関係なく興味・関心ある科目を履修したい	164 (92.1%)	110 (80.3%)	274 (87.0%)		

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

表7-3. 大学で学習したい単位 (実習)

	卒業生 (N=176) 人数 (%)	在学生 (N=138) 人数 (%)	合計 (N=314) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
既に取得した単位以外の科目を履修したい	30 (17.0%)	38 (27.5%)	68 (21.6%)	5.02	<0.05
単位に関係なく興味・関心ある科目を履修したい	146 (83.0%)	100 (72.5%)	246 (78.1%)		

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

表8. 学費の工面

(複数回答)

学費の工面	卒業生 (N=330) 人数 (%)	在学生 (N=257) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
これまでの貯蓄を充てる	199 (60.3%)	30 (11.7%)	143.61	<0.05
奨学金を借りる	121 (36.7%)	114 (44.4%)	21.02	<0.05
親・家族等に出してもらう	6 (1.8%)	119 (46.3%)	170.56	<0.05
アルバイト/有給休職を利用	55 (16.7%)	31 (12.1%)	2.45	NS
その他	8 (2.4%)	4 (1.6%)	0.54	NS

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

業生は「これまでの貯蓄を充てる」と考えている者が199名（60.3%）であったのに対し、在學生は30名（11.7%）と少なく、有意差がみられた（ $\chi^2(1)=143.61$ ）。また、「奨学金を借りる」と回答している者が卒業生121名（36.7%）であったのに対し、在學生は114名（44.4%）と多く、有意差がみられた（ $\chi^2(1)=21.02$ ）。「親・家族に出してもらおう」と答えている者は卒業生では6名（1.8%）と極少数であったのに対し、在學生は119名（46.3%）と半数近くに昇り、有意差がみられた（ $\chi^2(1)=170.56$ ）。

必要とする家族の支援については表9に示す（表9）。卒業生は「金銭的経済的支援」と答えている者が159名（48.5%）であるのに対し、在學生は237名（92.2%）にも昇り、有意差がみられた（ $\chi^2(1)=126.07$ ）。一方、卒業生は「家事全般」「育児」と答えている率が在學生より有意に高かった（ $\chi^2(1)=20.76$ ）。また、必要とする家族の支援は「特にない」と答えている卒業生は126名（38.4%）であり、在學生の13名（5.1%）との間に有意な差がみられた（ $\chi^2(1)=88.51$ ）。

## 2. 学業と勤務の両立

看護職として働きながら授業を受けたいかという問いに対する結果を表10に示す（表10）。「働きながら授業を受けたい」と答えた者が卒業生の191名（57.9%）に対して、在學生は102名（39.7%）と有意に少なく、「わからない」と答えた者が在學生は79名（30.7%）であり、卒業生の45名（13.6%）に比べて有意に多かった（ $\chi^2(3)=31.59$ ）。

## IV. 考察

### A. 編入学課程への入学希望および学習ニーズについて

編入学制度の認知度は、在學生の方が卒業生よりも知っていた者が多く、関心の高さを示していた。実際に編入学を希望するかどうかは、卒業生、在學生ともに差がなく、希望者はほぼ全体の半数程度であった。しかし、編入学を希望する理由については、卒業生が一般教養を学びたい、研究を学びたい、リフレッシュするためといった回答が多かったが、在學生は保健

表9. 必要とする家族の支援

（複数回答）

必要とする支援	卒業生 (N=330) 人数 (%)	在學生 (N=257) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
金銭的経済的	159 (48.5%)	237 (92.2%)	126.07	<0.05
家事全般	57 (17.4%)	13 (5.1%)	20.76	<0.05
育児	23 (7.0%)	4 (1.6%)	9.74	<0.05
特にない	126 (38.4%)	13 (5.1%)	88.51	<0.05
その他	10 (3.0%)	3 (1.2%)	2.35	NS

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant

表10. 看護職として働きながら授業を受けたいか

希望	卒業生 (N=330) 人数 (%)	在學生 (N=257) 人数 (%)	合計 (N=587) 人数 (%)	$\chi^2$ 値	有意差*
学業に専念したい	87 (26.4%)	74 (28.8%)	161 (57.1%)	31.59	<0.05
働きながら授業を受けたい	191 (57.9%)	102 (39.7%)	293 (27.2%)		
わからない	45 (13.6%)	79 (30.7%)	124 (13.3%)		
その他	7 (2.1%)	2 (0.8%)	9 (2.3%)		

\*  $\chi^2$ 検定 NS=not statistically significant



婦の資格を取得したい、大学生生活を楽しみたいといった回答が多かった。在學生は進路の選択肢として保健婦資格を取得するという希望があるが、卒業生はすでに看護婦としてのキャリアを積んでいるので、そのキャリアを継続し発展させていく上でより幅広い知識を身につけたいという希望があると考えられる。また、編入学を希望しない理由についても、卒業生は勉学についていく自信がない、近くに編入学制度をもつ大学がないからといった理由を挙げているのに対し、在學生は臨床での経験を積みたいから、学費がかかるからといった理由が多かった。卒業生は就業後、学業から離れている期間を考慮すると、学業に専念するための環境を整えるのに不安を感じているのに対し、在學生はこれまで看護婦資格を得るのに学業に専念してきたので、就業し実践現場を経験したいといった希望があると考えられる。

編入学課程における学習ニーズについても、卒業生は一般教養により豊かな人間性を身につけることを挙げているのに対し、在學生は保健婦としての基礎的知識技術を学ぶことを挙げている。在學生の方が資格取得へのニーズが高く、ここでも卒業生と在學生の目的意識の違いがはっきり現れている。それらが、編入学で希望する学習方法や単位取得の考え方の違いとしても現れている。卒業生は様々な教授陣の幅広い講義を聴きたい、レポートや論文の書き方を学ぶ機会を多く持ちたいといった希望が多く、幅広く教養を身につけ、また看護研究に役立つような知識を身につけられるような学習方法を希望していると考えられる。一方、在學生は大学での看護学実習を経験してみたいといった理由が多く、短大や専門学校では体験していない学習方法を希望しているようであった。

濱田他 (2000) によれば、多くの大学では編入学生の学習ニーズを事前把握しないまま、編入学カリキュラムを開始しており、編入学生がもつ個別のニーズを満たしていない可能性が示唆された。そこでは、大学側の視点から編入学生に学ばせたい内容が調査されているが、「一般教養による人間理解の深化」「保健医療福祉の広い視野から看護を捉える」「専門職としての看護

実践に必要な思考力」「自らの疑問を自分で探究する力」が挙げられている。卒業生の目的は比較的合致しているが、在學生の目的とはあまり合致しておらず、大学側の教育方針をどのように伝えていくのかという課題が示唆された。

また、平河 (1994) は編入学課程が学士教育と継続教育の二面性をもつと述べているが、今回の結果においても、看護職としてのキャリアを積んだ卒業生とそれを持たない在學生に違いが出ている。短期大学や看護専門学校からストレートに編入学してくる入学者に対する基礎教育の延長としての学士教育と、キャリアを持った入學生に対する継続教育を含めた学士教育を併せ持ち、入学者にとって選択の幅があるようなプログラムが求められているのだろう。

## B. 編入学に必要な学習環境・社会的支援について

学費の工面については、卒業生がこれまでの貯蓄を充てると回答しているのに対して、在學生は親・家族等に出してもらい、奨学金を借りるといった回答が多く、すでに就業している卒業生の場合、親・家族から学費の支援を期待できない事情が見えてきた。働きながら授業を受けたいと考えている卒業生も在學生に比べて多く、経済的に学業に専念することは難しい状況が伺える。経済的支援として、奨学金等の支援体制を整備・拡充していく必要がある。平河 (1997,p687) は「編入学教育を受けるには2年ないし3年間にわたって労働を中断する必要があるため、看護職者が編入学機会を活用できるのは、就労や休暇取得制度の整備いかんによる」と述べている。就労している卒業生に対しては、働きながら修学可能な休暇取得制度の充実など社会的支援も含めた配慮が必要であると考えられる。

## V. 研究の限界と今後の課題

本研究では、卒業生と在學生の編入学制度に対する意識の違いから、編入学カリキュラムの編成や社会的支援についての示唆を得ることができた。しかし、対象者の選定がN系病院および看護専門学校、看護短期大学に限定されてい

るため、一般化するには限界がある。今後は、設置主体による違いなどを考慮したサンプリングを行って調査していく必要がある。

## VI. 結論

1. 編入学制度の認知については、卒業生よりも在生の方が知っていると考えた割合が高かった。実際に編入学を希望しているかについては両者に差はなく、希望者は全体のほぼ半数であった。

2. 編入学の希望理由について、卒業生は一般教養を学びたい、研究を学びたい者が多く、看護婦としてのキャリアを発展させていくことを挙げているのに対し、在生は保健婦資格を取得するためという回答が多かった。

3. 学習ニーズについては、卒業生はこれまでに取得した単位に関係なく興味のある科目を履修し、一般教養により豊かな人間性を身につけることを希望しているのに対し、在生は既に取得した単位以外の科目や保健婦になるための知識・技術の習得を挙げた。これらのニーズに合わせたプログラムを編成していく必要性が示された。

4. 必要な学習環境や社会的支援については、卒業生は家族からの金銭的援助を受けずにこれまでの貯蓄を学費に充て、働きながら授業を受けることを希望していたが、在生は家族からの学費の支援を受けたいと考えていた。編入学に伴う経済的な負担が大きく、その支援体制を整えていく必要があることが示唆された。

## 謝辞

調査にご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

本研究は、平成11年～13年度科学研究費補助金（基盤研究C(2)）の助成による研究の一部である。

## 文献

- 濱田悦子他(2000). 多様な看護教育制度—編入生に対する受け入れ態勢の整備について—. 日本看護系大学協議会平成11年度事業活動報告書, 162-203.
- 平河勝美(1994). 看護系大学編入学課程の現状に関する調査. 看護教育, 35(3), 225-232.
- 平河勝美(1996). 看護職者の学習欲求を形成した体験と意識の調査—編入学教育に活かす学習者特性の課題—. 日本看護科学会誌, 16(3), 75-81.
- 平河勝美他(1996). 編入学資格要件を持つ看護者の学習欲求の研究. 日本看護学教育学会誌, 6(1), 53-61.
- 平河勝美(1997). 編入学制度の運用と教育内容に求められるもの. Quality Nursing, 3(7), 677-683.
- 河口真奈美他(1997). 臨床看護婦の編入学希望の状況. Quality Nursing, 3(11), 1119-1124.
- 河野祐子他(1994). 看護大学編入生生の学習ニーズに関する実態調査. 聖路加看護大学紀要, 20, 40-48.
- 文部省(1998). 学校教育法等の一部を改正する法律等の公布について(通知).
- 日本看護協会看護教育制度検討委員会(1980). 看護短期大学卒業生のための編入学特別コースの設定についての検討. 看護, 32(13), 140-149.
- 大賀明子(1990). 看護系大学編入学の実態と看護教育制度—日本における看護系大学編入学に関する実態調査から—. 看護教育, 31(1), 24-32.
- 吉田みつ子他(2000). 看護専門学校生と看護短大生の学士編入に対する意識. 日本教育制